

新学校給食共同調理場の整備を進めています

令和5年2学期からの供用開始に向けて、新学校給食共同調理場の整備を進めており、本年5月から建設工事を開始しました。建設工事は、令和5年6月末までを予定しています。

また、配送対象校となる小学校8校(一～八小)と中学校9校(全校)では、共同調理場からの給食提供に向けて、配送車のプラットフォームや配膳室の整備等のため、順次改修工事を実施しています。

図 学校給食課・内線6812



現調理場	立川市学校給食西共同調理場
新調理場	立川市学校給食東共同調理場

隣接する新・現学校給食共同調理場を識別できる施設名称とします

新学校給食共同調理場は、現学校給食共同調理場と東西に隣接することとなるため、施設名称で両場を識別できるよう、右記の通りとします。新しい施設名称は、令和5年8月以降の使用を予定しています。

今後、市立小・中学校の児童・生徒を対象に、隣接する2つの調理場を総称する「愛称」を募集する予定です。愛称募集の詳細は、今後お知らせします。

立川市の歴史と文化財

48

穀物袋から考える「SDGs」



写真3：継ぎ接ぎと名前の刺繍



写真2：穀物袋としての再利用



写真1：岩崎商店屋号の「会」

かつての立川市域では、主産業である農業の主要作物は米や麦でした。とはいえ、庶民にとっては米や麦を使った食事はとても貴重で、江戸時代には粟あわや稗ひえを主食として、麦を使った料理、すいとんやうどんなどは特別な時にしか食べられなかったようです。

さて、現在の食生活において、米や麦は欠かせないものですが、スーパーマーケットに行くとき見かける小麦粉や米の袋といえば、ビニール袋(プラスチック袋)を想像されると思います。業務用の大容量のものでも、ほとんどが紙製、もしくはプラスチック製の袋が使用されています。今回は、昨年度当館に寄贈された資料である穀物袋について紹介します。

寄贈された資料は平均して大きさ30cm×70cmで、おおむね容量が20〜25kgの穀類が入る布袋です。「日東製粉株式会社」(現在の日東富士製粉)や「日本製粉株式会社」(現在のニッポン)のもの、なかには、大正5(1916)年ごろから戦前まで立川駅北口の駅前北西で商売をしていた「岩崎商店」(米問屋、現在の岩崎倉庫)の袋と考えられるものも含まれています。この袋には「合名会社岩崎商店」と印字され、「品質優良」「無砂特撰」と白米が極上の品質であることが印刷されています。さらに、お店の屋号「全」が書かれています(写真1)。また、貴重な布袋であるために、まったく違う製品の袋を裏表にして印字した跡など、おそらく穀物袋としても何度も使用されたであろう痕跡(写真2)も見て取れます。

これらの穀物袋ですが、やはり当時としては貴重な布袋であったため、穀物袋としての役割を終えても使用されたようです。具体的には何を包んで使用されたものか、寄贈者の方からの聞き取り調査でも昔のことで分からないということでしたが、ほころびや穴あきに違う布をあてがって、丁寧に継ぎ接ぎ・ステッチを施し、名前を刺繍し(写真3)、洗って別な用途でも何度も大切に使い続けていたことがうかがえます。今改めて見ると、とてもオシャレで持ち主の方の深い愛着を感じます。近年あらゆる分野で「SDGs」(エスディーズ、Sustainable Development Goalsの略、「持続可能な開発目標」)が提唱されています。環境を考慮して大切にものを使い続ける「サステナブル」(持続可能な暮らし)のヒントを、昔の資料からも学びとり、心豊かに生活したいものです。

歴史民俗資料館では、7月10日(日)まで、企画展「新収蔵品展」を開催しています。本稿で紹介した穀物袋の資料に加え、立川飛行場にまつわる資料や大正時代から昭和40年代ごろまでの民具など、昨年度当館へ寄贈された資料の一部を展示し、また、昨年度に資料保存事業の一環で修復・デジタル化した貴重なフィルムも一部公開・上映しています。立川にゆかりのある昔ながらの生活道具などの資料や、懐かしい立川の風景映像を見て、「持続可能な生活様式」とはどのようなものなのか、考えてみませんか？

歴史民俗資料館(生涯学習推進センター) 文化財係 ☎(525)0860

これらの穀物袋ですが、やはり当時としては貴重な布袋であったため、穀物袋としての役割を終えても使用されたようです。具体的には何を包んで使用されたものか、寄贈者の方からの聞き取り調査でも昔のことで分からないということでしたが、ほころびや穴あきに違う布をあてがって、丁寧に継ぎ接ぎ・ステッチを施し、名前を刺繍し(写真3)、洗って別な用途でも何度も大切に使い続けていたことがうかがえます。今改めて見ると、とてもオシャレで持ち主の方の深い愛着を感じます。近年あらゆる分野で「SDGs」(エスディーズ、Sustainable Development Goalsの略、「持続可能な開発目標」)が提唱されています。環境を考慮して大切にものを使い続ける「サステナブル」(持続可能な暮らし)のヒントを、昔の資料からも学びとり、心豊かに生活したいものです。

歴史民俗資料館では、7月10日(日)まで、企画展「新収蔵品展」を開催しています。本稿で紹介した穀物袋の資料に加え、立川飛行場にまつわる資料や大正時代から昭和40年代ごろまでの民具など、昨年度当館へ寄贈された資料の一部を展示し、また、昨年度に資料保存事業の一環で修復・デジタル化した貴重なフィルムも一部公開・上映しています。立川にゆかりのある昔ながらの生活道具などの資料や、懐かしい立川の風景映像を見て、「持続可能な生活様式」とはどのようなものなのか、考えてみませんか？